

五重塔

身延山を代表する五重塔。元々は 1619 年に建てられたもので、かつては久遠寺の東側にありました。加賀藩三代藩主前田利常の母である寿福院（1570～1631）が建立しました。当時、この塔は日本で 2 番目に高い塔でした。残念ながら、1829 年と 1875 年の 2 回に分けて焼失してしまいました。平成の時代（1989 年～2019 年）には、この塔を再び建て直す作業が始まりました。建築家たちは、元の姿を正確に再現したいと考えていました。遺跡を研究することによって、彼らはオリジナルの寸法を決定しました。彼らはまた、同じオリジナルの建築家によって建てられた日本の他の塔を研究しました。2009 年に完成し、高さ 39 メートルの日本で 4 番目に高い塔となりました。身延山の山林から伐採された樹齢 400 年の木を使用し、赤い酸化鉄塗料で塗装されています。

塔は通常、歴史上の仏であるお釈迦様の遺灰を安置するためのものです。こちらは釈迦牟尼仏の遺灰を安置しているといわれ、世界各国の日蓮宗の信者の仏像も安置されています。